宇都宮の伝統文化

二荒山神社の祭礼

菊水祭

鳳輦渡御の様子

宇都宮二荒山神社の例大祭は、10月21日に行われる「秋山祭」です。菊水祭は、「秋山祭」の付け祭りとして発展してきました。伝統的な祭りは、神官たちによって神様に向かって行われるのに対し、付け祭りは、氏子や町民が主催した、神様に対してお礼の意味合いを持つ神賑行事です。例年10月28日・29日に行われてきましたが、最近では10月の最終土曜日と日曜日に行われています。

〈菊水祭の歴史〉

菊水祭の起源は、江戸時代の寛文12年(1672年)、日野町から火災が発生したおり、風下の曲師町が幸いにも類焼を免れたため、町の人々は二荒山神社のご加護があったためと喜び、その年の12月の冬渡祭に、日野町と曲師町から子ども数人の踊りの奉納とともに高張提灯を出しました。翌年1月の春渡祭には、他の町町からも出し物が出て混雑したため、「秋山祭の付け祭りとして行いたい」と社寺奉行に願い出て許可されたものです。延宝元年(1673年)、今から約340年前のことです。菊水祭の名前は、重陽の節句(菊祭)に行うようになったため菊水祭と呼ばれるようになりました。

新石町山車
(明治42年)
宇都宮の町中は山車や屋台で埋め尽くされました

神事、流鏑馬と鳳輦渡御が古式にのっとり連綿と続けられます

菊水祭では、「本社祭」と呼ばれる神前儀式が8時30分から行われ、羽織はかまで着飾った氏子代表や関係者全員が社殿に入ります。初日の神事は、杉の葉で神官が身のけがれを祓う杉の葉神事。2日目は黄菊と白菊の奉献です。その後、鳥居内で鳳凰を飾った神輿への神霊奉遷の儀、9時からは出御祭が行われます。

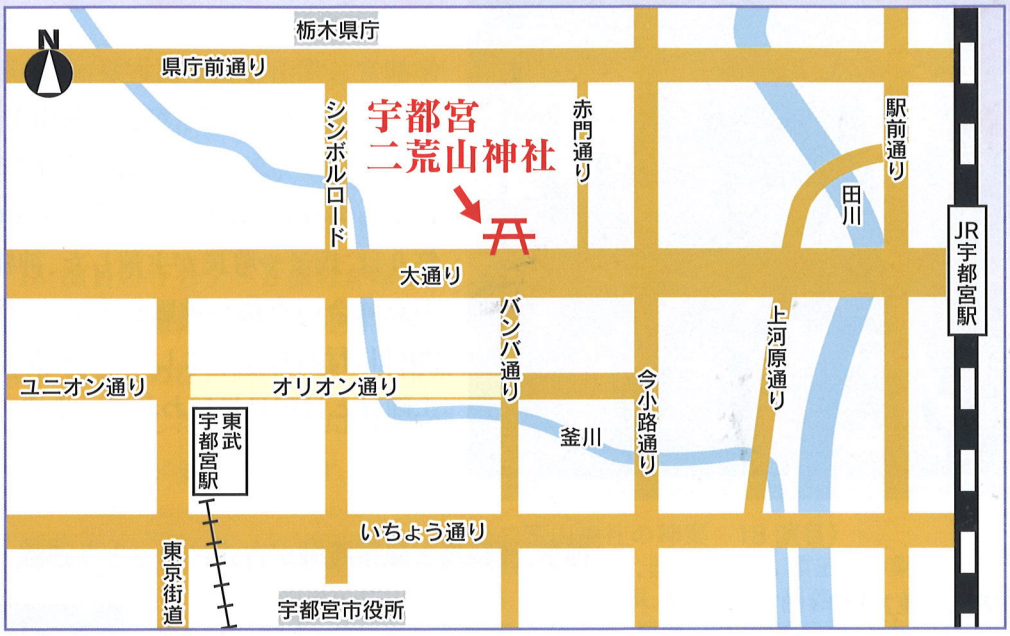
流鏑馬は、鎌倉時代から武士の間に流行した騎射の一つで、馬に乗った武者が馳せながら鏑矢で的を射るものです。騎射は一の馬から四の馬まで四名の武者で行います。流鏑馬は夕方にも行われます。流鏑馬が終わると、二荒山神社の祭神である豊城入彦命が神輿に乗り宇都宮のまちを渡御します。神社を中心として東を下町、西を上町に分け、両町を一日ずつ回ります。

伝馬町の彫刻屋台

蓬莱町の彫刻屋台

本郷町の山車

江戸時代から明治、大正、そして昭和の戦前ころまでの菊水祭はこれらの儀礼のほかに、氏子らが山車・屋台、各種の練り物が町中に繰り出し、祭りの規模、賑わい、氏子らの熱狂ぶりは、全国屈指の物でした。江戸時代に作られた「諸国御祭礼番付」には、東日本祭礼の十指に数えられ、江戸の天下祭に肩を並べるほどであったと言われています。今日ではこれら隆盛を誇った山車・屋台も、戊辰戦争や宇都宮空襲によってその大半は消失し、現在市内に原型のまま残っているのは、伝馬町および蓬莱町の彫刻屋台、本郷町の山車にすぎません。それでも、これらの山車や屋台は数年おきに菊水祭の鳳輦のお供をしています。



■二荒山神社の神楽

開催日：1・5・9月の各28日
場　所：二荒山神社

■菊水祭

開催日：10月最終土曜日・日曜日
場　所：二荒山神社

■堀米の田楽舞

開催日：12月15日・1月15日〈オタリヤ〉
5月15日〈田舞祭〉
場　所：二荒山神社

平成24年度 宇都宮市伝統文化映像記録作成事業
企画・制作：宇都宮市伝統文化映像記録作成実行委員会
協　　力：宇都宮二荒山神社　堀米の田楽舞保存会
宇都宮二荒山神社の神楽保存会
助　　成：平成24年度文化庁文化遺産を活かした
観光振興・地域活性化事業
発 行 日：平成25年3月31日
著　　作：宇都宮市教育委員会
連 絡 先：宇都宮市教育委員会文化課
宇都宮市旭1丁目1番5号
TEL.028-632-2764
FAX.028-632-2765